校長室からこんにちは！

No. 5
２月２０日
発行者　中田 禎二

教師，かくありたいが…

「収心の則」（荻生徂徠）に学ぶ…我が師（益地勝志）の著書「子どもが変わる教師の言葉かけ」より

１．人の長所を初めより知らんと求むべからず。人は用いて初めて長所の現れるものなり。
…子どもの長所を本当に見出し，子どもに気付かせるには，教師は相当の努力が必要であるが，子どもの短所はいとも簡単に見つけることができる。

２．人はその長所のみ取らば即ち可なり。短所を知るを要せず。
…子どもに何かをさせてみると，はっと気づく長所がある。子どもには表面からは見えない長所が必ず一人ひとつはある。短所については教師がそう思っているだけのことが多い。

３．己が好みに合う者のみを用いる勿れ。
…良い子ども，悪い子どもと思っているのは，実は，自分の好みに合う，合わないだけではないか？

４．人には必ず欠点があり，欠点なきは，人材となすに足らず。
…欠点は大きく見える。その欠点に隠れた鋭い野力，強い実行力を忘れてはならない。

５．小過を咎むる要なし。ただ，事を大切になさば可なり。用うる上は，その事を十分に委ぬるべし。
…子どもが活動するとき，小さな過ちについてくどくどと言うことなく，静かに待つ苦しみを味わえる教師になること。

６．上にある者，下の者と才知を争うべからず。

７．人材は必ず一癖あるものなり。器材なるが故なり。癖をもって捨つるべからず。かくてよく用うれば，事に適したときに応ずる程の人物は必ずこれにあり。

私たち教師は大切な子どもさんを預かり，家庭教育を基盤にして，その健やかな成長のために日々努めています。しかし，それは１年単位でみても長きに亘る営みであり，その過程では時に子どもの思いを見失うこともないとは言えません。今年度も１ヶ月を切り，改めて教師として自己を見つめる拠り所の一つを紹介しました。子どもたちに感謝しながら。

校長写真館

「スクールバス故障・事故対応の避難訓練」のひとコマ。落ち着いた行動は「平生往生」。日常生活全ての在り様の表出。勿論，安全運転第一！

ちょっとお耳を…

批判を恐れずに言えば，先々週からの東京の大雪の報道は，雪国に住む人にどう映ったのだろう。

例えば３０センチ程度の積雪で通勤が混乱する様を，信越地方のお年寄りはどう見たのだろう。

とは言いつつ，温暖な広島の瀬戸内沿岸に居を構える私もあたふたすることは容易に想像できるが。

何が言いたいかというと，昔の人の強さと生活の知恵に学ばねばということ。